

JAバンク新潟における地域密着型金融の取組状況（令和4年度）

JAバンク新潟（県下16JAと新潟県信用農業協同組合連合会）では、農業と地域社会に貢献するため、「JAバンク新潟中期戦略」に基づき、地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

令和4年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

《目次》

1 農山漁村等地域の活性化のための金融支援	・・・・・・・・P2
2 担い手の経営のライフステージに応じた支援	・・・・・・・・P5
3 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等 地域育成への貢献	・・・・・・・・P11

1 農山漁村等地域の活性化のための金融支援

J Aバンク新潟は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

(1) 農業融資商品の適切な提供・開発

J Aバンク新潟は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

令和5年3月末時点のJ Aバンク新潟の農業関係資金残高^(注1)は69,220百万円(うち農業経営向け貸付金38,686百万円)、日本政策金融公庫等の受託貸付金^(注2)は14,544百万円を取り扱っています。

(注1) 農業関係資金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に関する事業に必要な資金等が該当します。

(注2) J Aバンク新潟が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。

【営農類型別農業資金残高】 (単位：百万円)

種 類	令和5年3月末現在
農業経営向け	38,686
穀作	20,995
野菜・園芸	2,526
果樹・樹園農業	814
工芸作物	142
養豚・肉牛・酪農	1,846
養鶏・鶏卵	219
養蚕	—
その他農業	12,143
農業関連団体等	30,533
合 計	69,220

(注)

- 1 「その他農業」には、複合経営で業種が明確に位置づけられない者および農業サービス業が含まれています。
- 2 「農業関連団体等」には、J Aや全農とその子会社等が含まれています。

【資金種類別農業資金残高】 (単位：百万円)

種 類	令和5年3月末現在
プロパー農業資金	59,350
農業制度資金	9,869
農業近代化資金	3,660
その他制度資金	6,209
合 計	69,220

(注)

- 1 「プロパー農業資金」とは、J Aバンク原資の資金を融資しているものをいいます。
- 2 「農業制度資金」は、①地方公共団体もしくは日本政策金融公庫の資金をJ Aバンク新潟が転貸で融資するもの、②地方公共団体等が利子補給等を行うことでJ Aバンク新潟が低利で融資するものを対象としています。
- 3 「その他制度資金」には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

【農業資金の受託貸付金残高】（単位：百万円）

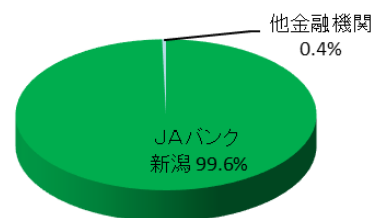
種 類	令和5年3月末現在
日本政策金融公庫資金	14,544
その他	—
合 計	14,544

（注）JAバンク新潟では、主にJAを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。

JAバンク新潟は主要な農業関係の制度資金である、農業近代化資金の取扱いにおいて県内トップシェアとなっています。

【新潟県の農業近代化資金残高】（令和4年12月末時点）

新潟県内総貸付残高	3,635 百万円
うちJAバンク新潟残高	3,621 百万円
〔出所：新潟県農林水産部経営普及課〕	



農業近代化資金 県内シェア
（令和4年12月末時点）

（2）アグリビジネス投資育成株式会社等によるファンドの活用

JAバンク新潟では、お客さまの資金調達手段の一つとして、農業法人育成のための資本供与の仕組みである「アグリシードファンド」や「担い手経営体応援ファンド」、「プロパー投資」による出資を提案しています。

令和4年度末の出資先は14先、出資総額は115百万円となりました。

【農業者向けファンド取扱実績（令和5年3月末）】

（単位：先、百万円）

ファンド名	先数	出資額
アグリシードファンド	11	70
担い手経営体応援ファンド	2	35
プロパー投資	1	10
合 計	14	115

(3) 担い手のニーズに応えるための取組み

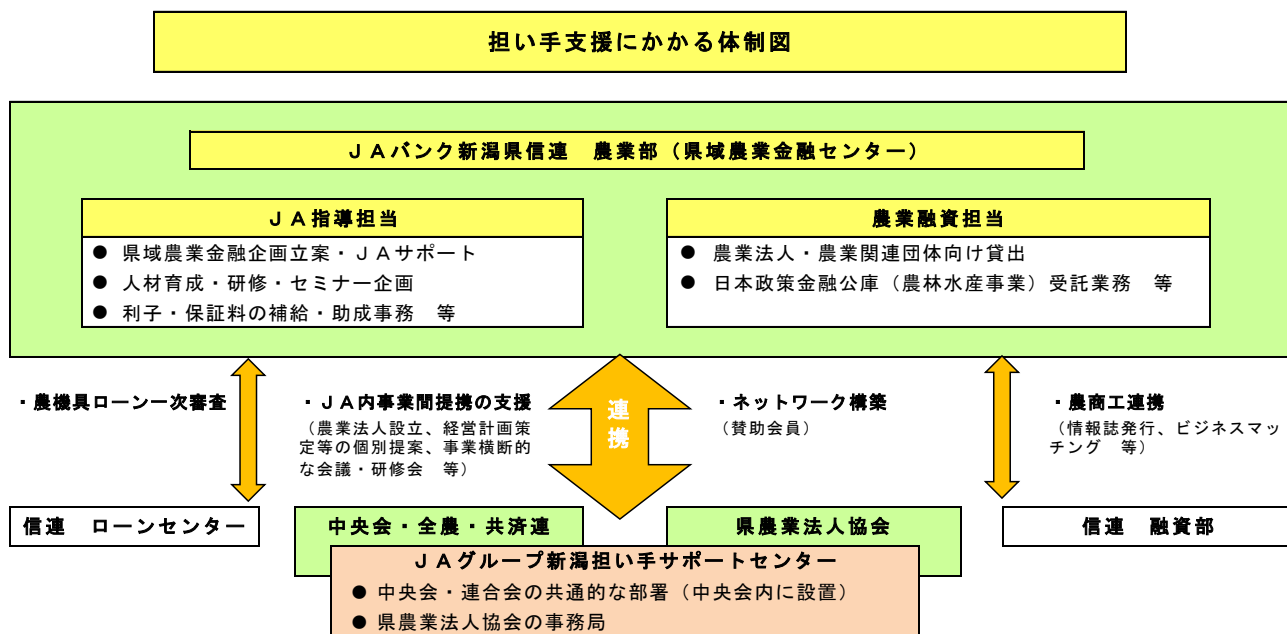
J Aバンク新潟では、地域の農業者との関係強化を目的とした体制整備に取り組んでいます。

信連では、農業部を「**県域農業金融センター**」と位置づけ、J Aの指導・サポート機能と農業法人等への融資相談機能を併せ持つことで、一元的な取組みを進めています。J Aの体制整備や人材育成を支援するとともに、J Aと連携した協調融資などにも取り組んでいます。

県下16 J Aでは、担い手への訪問・資金提案活動を中核的に担う「**農業融資相談員**」をJ A本支店(所)に167名配置し、また、農業融資の実務を統括する「**担い手金融リーダー**」を18名配置しています。

農業融資相談員等の相談対応力向上を目的に、J Aバンク独自の農業融資資格制度である「**J Aバンク農業金融プランナー**」の資格取得を進めており、農業融資相談員のうち115名が資格を有しています。また、日本政策金融公庫が実施主体となる「**農業経営アドバイザー**」資格の研修・試験にも取り組み、農業融資相談員のうち29名が資格を有しています。

また、J Aが総合力を発揮し農業者の多様なニーズに応えていくため、信連を含めた中央会・連合会の共通的な部署である「**J Aグループ新潟担い手支援室**（略称：担い手サポートセンター）」が中心となり、農業法人設立、経営計画策定および事業承継の個別提案活動や事業横断的な会議・研修会の開催等を通じ、J A内事業間連携の強化を支援しています。



2 担い手の経営のライフステージに応じた支援

J Aバンク新潟は、担い手をサポートするため、ライフステージに応じて、次の取組みを行っています。

(1) 「にいがた農業応援ファンド」による助成

「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とするJ A自己改革を不断の取組みとしていくため、農業者への支援パッケージとして、「にいがた農業応援プログラム」を展開しました。

中でも、柱となる事業の一つである「にいがた農業応援ファンド」について、令和4年度は、「新潟県園芸振興基本戦略」の取組みを新潟県および関係機関と一体となって一層推進していくため、「1億円園芸産地チャレンジ事業」の助成枠を拡充しました。また、「園芸生産拡大支援事業」および「新規・親元就農応援事業」を継続し、農業者の取組みを支援しました。



にいがた農業応援ファンドを活用し、効率的な作業のための機械を導入

【にいがた農業応援ファンド取組実績（令和4年度）】 (単位：件、千円)

事業名	申請件数	申請金額	採択件数	採択金額
1億円園芸産地チャレンジ	149	45,200	144	43,580
園芸生産拡大支援(担い手向け)	82	15,227	82	15,212
新規・親元就農応援	56	11,200	56	11,200
合計	287	71,627	282	69,992

(2) 次世代農業者の育成支援

J Aバンク新潟では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、「青年等就農資金」等を取り扱っているほか、上記(1)のとおり、J Aバンク新潟独自のにいがた農業応援ファンド「新規・親元就農応援事業」を展開しています。

【新規就農者をサポートする資金の取組実績】 (単位：件、百万円)

資金名	令和4年度		令和5年3月末 残高
	実行件数	実行金額	
青年等就農資金	18	134	492
就農支援資金	—	—	6
合計	18	134	498

(注) 平成26年4月1日付の法改正により、就農支援資金の新規取扱いは終了となり、新たに青年等就農資金が創設されました。

(3) 食農バリューチェーン構築による農業・地域の成長支援

J Aバンク新潟は、農林水産業の成長力・収益力強化のため、ビジネスマッチングによる販路拡大等の農商工連携推進に取り組み、「農業と地域の架け橋」としての機能を発揮しています。

【情報誌「Sole!にいがた」の発行】

農商工連携推進の一環として、フリーペーパー形式の情報誌「Sole (そーれ) !にいがた」を平成 22 年 7 月に創刊、以来年 4 回発行しています。

この情報誌では、「農・商・工をつないでみんなで作る新潟の元気!」を合言葉に、県内の農業や産業に関する幅広い情報の提供により、農業生産者・J Aグループと地域の企業、さらには広く地域の皆さまとの結び付きを強め、新たなビジネスチャンスを生み出すきっかけづくりを目指しています。

※県内の J A窓口や直売所、道の駅、スーパー等で無料配布しています。

※バックナンバーは、Sole!にいがたホームページまたは信連ホームページからご覧いただけます。



Sole!にいがた

(4) 講演会・セミナー等の開催

J Aバンク新潟では、農業法人等の経営安定化支援や参加者同士の情報交換、ネットワークづくりの場を提供することなどを目的として、セミナーや個別相談会を開催しています。また、農業法人等の皆さま向けに、講演会やセミナーを開催し、異業種間の交流を促進しています。

〈令和 4 年度に開催したセミナーの概要〉

名称	主催者	対象者	内容
第 16 回農業法人経営者セミナー	信連	県下農業法人および J A 等	【第一部】 演題：「スマート農業のススメ？」 講師：株式会社まいすたあ 代表取締役 齋藤一志 氏 【第二部】 演題：「農業の生産性向上とこれからの農業経営」 講師：株式会社経営技術研究所 代表取締役 藤井春雄 氏

(5) 事業性評価を通じた農業者の経営課題把握・課題解決ソリューションの提供・蓄積
 信連では、農業所得の向上および農業者の満足度向上に向けた取り組みとして、地域の中核的な役割を担う農業者に対し、業種特性や外部環境・内部環境を踏まえたヒアリングを行い、経営・事業の課題解決に向けて、JAや関係機関、専門家等と連携し、適切なソリューションの提供に向けて取り組んでいます。

今後も、ソリューション提供先の課題解決に向けて進捗状況を確認し、取組事例を蓄積していきます。

【具体的取組事例①】

営農類型	穀作
<p>概要</p>	<p>米作を中心に野菜の生産および加工販売を行いながら、農家民宿の運営も手掛ける農業法人に対し、経営課題や将来の展望等のヒアリング、財務分析ならびに作付品目別収支分析を行い、課題の抽出・整理を行いました。</p> <p>その内容を踏まえ、長期的（10年後）に目指す姿とした「経営の安定化による自社圃場の拡大および地域農業の維持・発展」の実現に向けた課題解決ソリューションを次のとおり提案しました。</p> <p>①内部体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従業員の高齢化や水稻の作業負荷の増大がみられることから、人員配置等の体制の再構築および安定化に向けた専門家（新潟県よろず支援拠点など）の紹介、活用。 <p>②経営資源の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農機、設備の老朽化が進み、更新投資にかかる負荷増大が懸念されることから、計画的な更新に向けたリストアップや農機リースを活用した更新等。 ・民宿部門の稼働率向上に向けた、宿泊客へのアンケート実施とその結果を踏まえた料金体系見直しやアクセス整備等。 <p>③水稻の生産性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山間部に点在する圃場環境等により反収が地域平均を下回っていることから、生産実績の分析（品目別収支分析の継続や圃場別栽培分析の実施）とその結果に基づく最適な作付品目の検討。 <p>④新規販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信連取引先とのビジネスマッチングや、高単価な直販拡大に向けた取組み。 <p>引き続き、経営者との対話を通じて進捗状況を確認しつつ、解決すべき課題を関係機関と共有し、最適なソリューションの提供を行います。</p>
<p>成果(効果)</p>	<p>課題解決ソリューションの実施による利益率の改善、効率的な資産活用等により、経営の安定化および自社圃場の拡大が図られ、地域農業の維持・発展に資することが期待されます。</p>

【具体的取組事例②】

営農類型	穀作
<p>概要</p>	<p>米作を中心に野菜の生産等も手掛ける農業法人に対し、経営課題や将来の展望等のヒアリング、財務分析ならびに作付品目別収支分析を行い、課題の抽出・整理を行いました。</p> <p>その内容を踏まえ、長期的（7年後）に目指す姿とした「規模拡大による売上高伸長と収益性の向上、財務内容の安定化」の実現に向けた課題解決ソリューションを次のとおり提案しました。</p> <p>①水稲の生産性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全品種において反収改善の余地があることから、技術力向上に向けたJAや関係機関による土壌分析、改良や研修会への参加、ならびに役員等による若手従業員へのOJT教育等。 ・点在化する圃場への対策として、JAや（公社）新潟県農林公社を利用した圃場集約。 <p>②作付品目構成の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水稲の全品種において収支が赤字であることから、品目別収支分析の結果や関係機関からの情報等に基づく作付品目構成の見直し。 <p>③設備投資計画の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の施設・農機の能力では作付面積拡大に十分対応できず、今後大型の設備投資が発生した場合には一時的な財務内容の悪化が予想されることから、設備投資計画の策定と、策定に向けたJAおよび信連のサポート、ならびにアグリビジネス投資育成株式会社を活用した出資（増資）の検討。 <p>引き続き、経営者との対話を通じて進捗状況を確認しつつ、解決すべき課題を関係機関と共有し、最適なソリューションの提供を行います。</p>
<p>成果(効果)</p>	<p>課題解決ソリューションの実施により、規模拡大を図りつつ収益性の向上と財務内容の安定化を実現することが期待されます。</p>

(6) 被災者等への支援

J Aバンク新潟では、新型コロナウイルス感染症により影響を受けた農業者や、各種自然災害等の被災者を支援するため、対策資金等の創設や個別融資先の経営状況に応じた償還条件の緩和等に対応しました。

【災害対策資金の取組み】

(単位：件、百万円)

取組事例	J A名	内容	件数	貸付実行金額
新型コロナウイルス感染症緊急対策資金	J Aバンク新潟	新型コロナウイルス感染症により影響を受けた農業者に対し、J Aグループ新潟および農林中央金庫からの利子補給による低利の資金を令和2年度に創設し、取扱いを継続	2	3
令和4年度災害復旧支援資金	J Aバンク新潟	豪雨や豪雪被害を受けた農業者に対し、J Aグループ新潟および農林中央金庫からの利子補給による低利の資金を創設	25	93
原油価格・農業資材価格等高騰緊急対策資金	J Aバンク新潟	原油価格・農業資材価格等の高騰により影響を受けた農業者に対し、J Aグループ新潟および農林中央金庫からの利子補給による低利の資金を創設	79	267
合 計			106	363

(7) 経営不振農業者の経営改善支援

J Aバンク新潟では、負債整理資金の対応等にあたり再生計画の策定支援や経営指導など、農業者の経営改善支援に取り組んでいます。

【令和4年度 農業者の経営改善支援等の取組実績】

(単位：先)

	期初経営改善支援取組先 A	Aのうち再生計画を策定した先数 a	Aのうち期末に債務者区分がランクアップした先数 b	Aのうち期末に債務者区分が変化しなかった先数 c	再生計画策定率 = a / A	ランクアップ率 = b / A	
		正常先 ①	33	21		27	63.6%
要 注 意 先	うちその他要注意先 ②	49	3	1	26	6.1%	2.0%
	うち要管理先 ③	5	1	1	4	20.0%	20.0%
	破綻懸念先 ④	25	3	1	21	12.0%	4.0%
	実質破綻先 ⑤	23	9	1	19	39.1%	4.3%
	破綻先 ⑥	0	0	0	0	—	—
	小計 (②～⑥の計)	102	16	4	70	15.7%	3.9%
	合 計	135	37	4	97	27.4%	3.0%

(注) 期初経営改善支援取組先および債務者区分は令和4年3月末時点のものです。

(8) 負債整理資金による経営支援

J Aバンク新潟では、農業者の経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【令和4年度 負債整理資金の貸出実績】

(単位：件、百万円)

資金名	実行件数	実行金額	令和5年3月末 残高
農業負担軽減支援資金	4	6	529
畜産特別資金	—	—	45
土地改良負担金対策資金	3	40	355
農業経営負担軽減支援資金	2	24	38
その他	—	—	12
合計	9	70	980

- (注) 1 農業経営負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。
- 2 畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。

3 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

J Aバンク新潟では、地域と農業者の結び付きを強化し、地域を活性化するため、また、地域への社会貢献のため、次の取組みを行っています。

(1) J Aバンク新潟食農教育応援事業の展開

J Aバンク新潟では、将来を担う子どもたちの農業や自然環境、金融経済に対する理解を促進することを目的とした「J Aバンク新潟食農教育応援事業」を展開しています。

主な取組みとして、J A等による子どもを対象とした食農教育活動への助成事業や、補助教材「農業とわたしたちの暮らし」（小学校高学年向け、特別支援学校生向け）の無償配布を実施しています。小学校高学年向け補助教材は県下の小学校434校へ21,740部、特別支援学校生向け補助教材は県下の小学校・特別支援学校14校へ138部を贈呈し、各学校において授業等に活用されています。

また、県下J Aでは、下表のとおり食農教育にかかる様々な実践活動に取り組んでいます。令和4年度においては、県内16J Aが当事業を活用して食農教育活動を実施しました。各J Aがコロナ禍においても創意工夫のうえ、地域の活性化の取組みとして、地域に根差した食農教育活動に力を注いでいます。

【「J Aバンク新潟食農教育応援事業」を活用した各J Aの活動内容】

J A名	活動名	活動内容
J Aかみはやし	野菜苗・花苗植え体験	園児を対象に、野菜・花の苗植えの体験を実施。
J A北越後	フラワーアレンジメント教室	小学生を対象に、管内生産の花を使用したフラワーアレンジメント作りと食農クイズを実施し、地域農業への理解促進を図った。
J A胎内市	田植え・稲刈り体験学習	小学生を対象に、田植え・稲刈り体験学習を実施。
J A新潟かがやき	田植え・稲刈り体験学習	小学生を対象に、田植え・稲刈りの体験学習を実施
J A佐渡	お茶畑見学・お茶摘み取り体験	小学生を対象に、お茶畑の見学と、地元農家の指導によるお茶摘み体験を実施。
J A羽茂	ピーナッツとサツマイモ作り	園児を対象に、ピーナッツとサツマイモ栽培と収穫体験を実施。
J Aにいがた南蒲 (現J Aえちご中越)	食農教育出前授業	園児、小・中学生を対象に、地産地消、米作りの基礎等を学ぶ出前授業を実施。
J A越後ながおか (現J Aえちご中越)	夏休みアグリスクール	小学生を対象に、枝豆収穫、農産物加工（うどん作り）体験を実施。
J A越後さんとう (現J Aえちご中越)	郷土食伝承会	園児、小・中学生の親子を対象に、郷土食の「笹団子・太巻き寿司」ともち花飾作りを実施。
J A越後おぢや	農業体験学習出前授業	小・中学生を対象に、野菜苗の移植の出前授業を実施。

J A名	活動名	活動内容
J A北魚沼	食農教育図画コンクール	小学生を対象に、“地元のお米・野菜・ぼく・わたし” 図画コンクールを実施。
J Aみなみ魚沼	夏休み子ども料理教室	小学生を対象に、手作りおにぎりの写真を応募してもらいHPにて紹介。
J A十日町	どろんこキッズスクール	小学生を対象に、バケツ稲作り、里芋植付け、アスパラ・トウモロコシ収穫体験、収穫野菜の調理実習を実施。
J A津南町	どろんこ体験学習	小・中学生を対象に、野菜、米、花の栽培体験学習を実施。
J Aえちご上越	ちゃぐりん道場	小学生の親子を対象に、野菜（トマト・なす）収穫体験、米粉ケーキ作りを実施。
J Aひすい	おにぎり作り体験	園児を対象に、地元産のお米でおにぎり作り体験を実施。

〈J A胎内市 田植え・稲刈り体験学習の様子〉



(2) 文化的・社会的貢献活動

J Aバンク新潟では、地域社会の一員として、文化、スポーツ、社会福祉、環境などの分野で幅広い地域貢献活動を展開しています。

○新潟市アグリパーク「アグリ・アート展」への協賛

芸術活動を通じて子どもたちの農業への理解を深め、アグリ・スタディ・プログラム※の更なる充実に貢献することを目的として、新潟市アグリパークが主催する絵画展「アグリ・アート展」への協賛を行っています。

※アグリ・スタディ・プログラムとは、学習指導要領の内容に基づき、学校のカリキュラムと連動した農業体験学習のことです。

○「アルビレックス新潟」サッカー観戦チケットの寄贈

県内の障害者スポーツ普及活動を支援するため、新潟県障害者スポーツ協会へ、アルビレックス新潟のホームゲーム招待券を寄贈しています。

令和4年度は、リーグ戦全20試合、延べ220名を招待しました。

○公益信託「J Aバンク新潟県信連創立50周年記念・ホームヘルパー支援基金」

新潟県内の社会福祉法人やボランティア団体等を助成対象者とし、ホームヘルパーの活動および当該活動を支援する設備等に対し助成を行っています。

○『小児がん』の子どもによりそう定期貯金」の受入れを通じた、支援団体への寄付金の贈呈

J Aバンク新潟では、平成29年度より、貯金の受入れを通じた小児がん患者への支援を目的とした定期貯金を取り扱っています。

多くの皆さまから趣旨にご賛同いただいた結果、令和4年度は115万円を認定NPO法人ハートリンクワーキングプロジェクトに寄付することができました。

○エコキャップ運動への参加

ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを届ける活動に参加しています。

○環境保全への取り組み

職場内の節電対応や、「クールビズ」「ノー残業デー」の実施など、環境保全を意識した取り組みを積極的に行っています。

また、地球温暖化防止や、地域の森林整備等の促進、豊かな自然環境の保全を支援することを目的に、カーボン・オフセット※にも取り組んでいます。

※カーボン・オフセットとは、暮らしの中で出てしまうCO₂を、森林整備等CO₂吸収活動の支援により埋め合わせることです。

以上